



手に届きそう
で届かない…

○成長するには答えのある課題から

前期定期考査が終わりました。満足のいく結果だった人はより高みを、そうではなかった人は反省して次で挽回できるようにしましょう。出題範囲が分かっているテストほどありがたいことはありません。

就職にしても、進学にしても、「試験」に答えはありません。3年生の進路指導をしていると、「何を聞かれるか（出るか）分からないから不安」という言葉をよく聞きます。それに答えられるには「自分」に中身が無いといけません。知識・経験そのどちらも欠けてはいけません。

「授業を大切にして、基礎的な学力を身につけると同時に評定平均を上げる」

「遅刻、欠席をしない」「日頃から服装、言葉づかいに注意して身につける」

この「当たり前」の積み重ねの上に進路実現はあります。「まだ試験（卒業）まで時間あるし、まだエエわ」と思う人は「時間の貴重さ」に早く気づきましょう。

○就職希望者の10月

現在、一次の選考試験が終わり、その結果が学校に届いているところです。

☆9月末ごろに選考結果が学校に届きます。（不採用なら次を探す）

⇒不採用でも、あきらめない！落ち込んでても企業は待ってくれません！

☆内定（合格）をもらった人は、「入社承諾書」と「礼状」を書いて郵送します。

⇒届いたら受け取ったその日の内に書き始めること！それがやる気のアピールです！

やる気が無い人には内定は取り消しも有り得ます！

★面接・作文（「志望動機」と「高校生活でがんばったこと」）は必須です。

⇒「何をしたか」に加えて、「あなたがどう成長したか」が大事です！

★学科試験やSPI 検査等のための「基礎学力」は毎日の授業でつけます。

★内定した人は、卒業まで気を緩めずに学校生活を送り、社会人の準備に取り組むこと。
（コミュニケーション力を観るために、グループワークなども導入されています。）

□失敗は人生には付き物です。人は、それを乗り越えて初めて成長できます。失敗を恐れて何もせず、成長できないということがないようにしましょう。

○入試スケジュール

指定校推薦やAO入試が近づき、受験希望者を中心に、面接練習をしました。公募制推薦入試・一般入試受験予定の人は放課後講習も活用して、それぞれ自分に必要な入試科目（入試形態で様々）の受験準備の追い込みに入っています。また、模擬試験を受けて志望校の合格可能性を把握しています。

★入試形態について（目安）

入試形態		出願時期	入試日
AO入試		8月～	9月上旬～
推 薦 入 試	自己推薦	10月上旬～	10月中旬～
	公募推薦		
	指定校推薦		
一般入試		12月中旬～	1月下旬～3月末日まで
センター試験（2019年度）		9/30～10/10	1月18日・19日

この入試形態は今年度までです。来年度は大学入学共通テスト、大学入試英語成績提供システムの導入という大きな変化が訪れます。このうち大学入試英語成績提供システムに関して、2年生の内から申し込みをする必要がありますので、後日説明会を開きます。が、全ての大学受験生に必要ではないようです。実際どのように大学側が活用するかは殆ど分からないのが現状ですが、それを嘆いていても始まりません。大事なのは次です。

○微妙な差こそ大きな差

「滑り止め」この言葉をよく聞きます。「かなりの確率で受かるであろう大学（学校）」というのが本来の意味かと思えます。しかし、生徒と話をしていると、「受験時期が遅い」＝「滑り止め」だと思っている人が多いようです。特にセンター試験（来年からの大学入学共通テスト）は1月にあるので、それを滑り止めだと誤解している人が多いようです。「センター利用入試は一科目（出願するだけ）」という言葉には裏があります。センター利用入試は、「一科目だけの勝負で自信のある人が受ける入試」です。だから、8割9割といった高いハードルがあります。

少し話がそれましたが、現在個人では把握しきれないほど入試（選考）が多様化して「あなたの受験」がどうなるかは誰にも分かりません。あなたが決めるのです。「いくつ受験したら合格」ということはなく、普段の勉強で実力をつけて、模試を受けて実力を知り、足りないところを本番に向けて実力をつける…この繰り返しです。また、実力を知って、自分に必要な情報を仕入れるのも大事なことです。

これら全てをして初めて「滑り止め」は見えてきます。暇はありません。就職だろうが、進学だろうが、勉強、部活…「あなたの受験に必要なこと」を精一杯しましょう。「暇つぶし」とは頑張っている人の息抜きで、「暇つぶし」が何時間もあるのは「ただの暇人」です。